

事業所における自己評価結果（公表）

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点や課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等スペースとの関係で適切であるか	○	運動遊び等、活動によってより広い部屋を使用したい場合は、館内の広い部屋を借入しスペースを確保している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	○	施設基準に合致した人数の職員を配置している。児の状況や活動内容により、人員を増員することでより良い保育を行える場合は、係内で部分的にサポートに入るよう努めている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	○	聴覚障がい児者にとって聞き取りやすい環境を整えるため、二重窓を設置し屋外の騒音を減らしている。その他、床にマットを敷く、吸音ボードを設置するなどしている。活動によってはついたてを活用したり、机の配置を工夫して、利用児が活動内容を理解し、集中しやすいようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか	○	施設の老朽化が顕著であり、特にトイレの臭いや使いづらさがある。空気清浄機の配置、破損部分の修理、こまめな清掃を行うことで、利用者に不快感を与えないよう努めているが、今後改修が必要と思われる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	○	個別室を含め、一日の部屋の使用状況を職員間で確認できるようにしており、必要な時に使用できるようにしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○	
	7	保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○	年に1回利用者アンケートを実施し、その結果を職員間で共有し、業務改善に努めている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	○	週1回の会議で意見を集約するとともに、適宜面談を行い職員の意見を吸い上げ、業務の改善につなげている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会を確保しているか	○	センター内、法人内をはじめ、外部の研修にも参加する機会を設けている。
	11	適切に年間カリキュラムが作成、公表されているか	○	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○	年齢、発達に合わせたアセスメントシートを活用し、また相談支援員とも連携をとりながらこどもや保護者のニーズを確認し、各児に合わせた個別支援計画を作成している。
	13	児童発達支援計画を作成する際は、児童発達管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	○	児童発達管理責任者、担当職員、園長により個別支援会議を実施し、情報を共有を行いながらこどもの支援内容を検討している。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	○	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	○	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		保育士、児童指導員、言語聴覚士で構成するチームで活動プログラムの立案を行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか	○		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援しているか	○		療育当日の事前ミーティング、週1回の各学年ごとのミーティングを通じて、課題の流れや具体的な支援の内容、役割分担について確認し、事後のミーティングで反省、修正を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	○		年2回モニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか	○		会議には療育担当者が参加している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行っているか	○		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		併行利用する保育園、幼稚園等に対して、難聴講座の開催、園訪問、公開療育等を実施している。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		聴覚特別支援学校との間で見学会や引継ぎ連絡会を実施している。また難聴学級や言語通級とも適宜ひきつぎを行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか	○		地域の児童発達支援センターや障がい児通所支援事業所にも難聴講座を案内し、参加していただいている。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか	○		職員が外部の研修に参加することで、質の向上に努めている。
30	(自立支援) 協議会こども部会や地域のこども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	○	当園からは参加していないが、当センター他係から参加している。	

		(31は、事業所のみ回答)			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のないこどもと活動する機会があるか		○	在園児のうち大部分が保育園、幼稚園との並行通園を行っており、居住地域に母集団を持っている。在籍の園での他児との関わりについても、園訪問の際等に助言を行っている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		集団療育での毎回の学習会や個別面談の中、また個別療育の中でこどもの様子を振り返り、成長や課題を共有するようにしている。
保護者への説明責任等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	○		集団療育では毎回40分程度学習会を行い、当日の振り返りや難聴について、またこどもの関わり方について話をしている。また耳鼻科医による学習会を年3回行ったり、外部からの各種研修については掲示している。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		個別懇談の場で説明を行い、同意を得ている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○		異年齢の保護者同士が交流する「ありんご交流会」を開催したり、先輩保護者を招いての学習会を実施している。低年齢児を中心に交流の場を希望する声は多く、更なる交流の場を検討したい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		
			(31は、事業所のみ回答)		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか	○		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のないこどもと活動する機会があるか		○	在園児のうち大部分が保育園、幼稚園との並行通園を行っており、居住地域に母集団を持っている。在籍の園での他児との関わりについても、園訪問の際等に助言を行っている。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		集団療育での毎回の学習会や個別面談の中、また個別療育の中でこどもの様子を振り返り、成長や課題を共有するようにしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	○		集団療育では毎回40分程度学習会を行い、当日の振り返りや難聴について、またこどもの関わり方について話をしている。また耳鼻科医による学習会を年3回行ったり、外部からの各種研修については掲示している。	

非常時等の対応

	報提供等を行っているか			の各種研修については掲示している。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		
36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	○		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		個別懇談の場で説明を行い、同意を得ている。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	○		異年齢の保護者同士が交流する「ありんご交流会」を開催したり、先輩保護者を招いての学習会を実施している。低年齢児を中心に交流の場を希望する声は多く、更なる交流の場を検討したい。
40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。